ヘブル１章 5〜14 節「御子の卓越性」

様々なことが変化する中にあっても、私たちは変わらないものをいただいています。神の変わらない恵みによって、この一年の歩みが導かれてきたことを感謝します。
神が御子にあって語られたということ、神が御子によってなさったみわざのすばらしさは、アドヴェント第１週の礼拝で開いたヘブル人への手紙１章で語られています。1 節から 4 節までで、著者はことばを重ねて御子のすばらしさを伝えています。

１．御子である神（：5〜6）
それに続く今日の箇所では、御子は御使いよりもすばらしい方であることを旧約聖書のことばを引用して語っていきます。
5 節。詩篇 2 篇からの引用です。2 篇では王である方について語られ、その方は主に油注がれた方で、全地の王であり、神の御子であると言われています。
御使いは神が造られた被造物ですが、御子はそうではありません。「今日…生んだ」とは、御子が人となって生まれたことで始まった御父と御子の新たな関係を反映した詩的な表現です。
「あなたはわたしの子」と同じようなことばが、イエスが洗礼を受けた時と山の上で輝く姿に変わった時に天から聞こえました。
5 節後半。このことばはⅡサムエル 7 章にあるダビデに与えられた主の契約の中のことばの引用です。このみことばもダビデの子孫として生まれたイエス・キリストによって成就しました。
そして神は、御子である方への態度として、御使いに命じました。6 節。これは詩篇 97 篇の中の一節を解釈して引用したようです。御子は礼拝されるべき神です。御使いは御子を礼拝すべきなのです。
御子のすばらしさを強調したのは、当時の教会の中にイエスは一番すぐれた御使いだという間違った考えが入り込んだからです。それに対して著者は、イエスは神の御子であり、神であることを強調しているのです。似たような間違った教えは現代の異端の中にもあります。それに対して私たちは、聖書がイエス・キリストは神の御子であると教えていることにしっかりと立たなければなりません。

２．御使いについて（：7）
御使いについても旧約聖書から引用しています。このように聖書から多く引用して語っているのは、神のことばである聖書に聞くことを大事にしているということでしょう。聖書に聞く態度が基本であり、大事であることは私たちにとっても同じです。また、聖書は聖書によって解釈し、理解することが基本です。
7 節。詩篇 104 篇からの引用です。104 篇では、神が天地を造られ、保っておられることが語られています。御使いも被造物であり、神のみわざに用いられます。風や燃える炎として用いられます。風や炎は一時的なものです。同じように御使いは、神に用いられる尊い存在ですが、その働きは一時的なものなのです。

３．御子について（：8〜13）
御子はどのような存在で、そのみわざはどのようなことであるかを語ります。
8〜9 節。詩篇 45 篇からの引用です。王のために作られた詩です。永遠に堅く立つと約束されたダビデの王座に着く王のことを歌っています。「神よ」と呼びかけていますが、王が「神」なのではなく、「ダビデの王座」が神聖であり、永遠なのです。その永遠の王座に着く王とは神によって喜びをもって「油を注がれた」メシアである言います。
そのように「神よ」と呼びかけられ、永遠の王座、ダビデの王座についておられる栄光の王とは誰でしょうか。神の御子イエス・キリストであると著者は言うのです。

10〜12 節。詩篇 102 篇からの引用です。神が天地を造られ、保っておられます。著者はすでに神の創造と支配のみわざに御子が共に関わっていることを語っていました。2 節に、神は「御子によって世界を造られました」と言い、3 節に、御子は「万物を保っておられます」と言っています。そのように、この詩篇のみことばも御子に対する信仰の告白であるということです。
そして、今の天地の滅びる時が来ると言います。天地の滅びは、天地を造り、保っておられる神が

もたらします。「外套を巻き上げる」ようにし、「衣のように取り替え」ます。神が今の天地を過ぎ去らせ、新しくするのです。
　そのように、今の天地は永遠ではありません。しかし、「あなたはいつまでもながらえます」、「あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません」と神が永遠不変であることを強調しています。御子は変わることがなく、永遠のお方です。

　13 節。詩篇 110 篇からの引用です。110 篇はダビデの作です。
　主イエスはこの詩篇のみことばを引用してパリサイ人たちに尋ねました。マタイ 22 章 43〜45 節。ダビデが「私の主」と呼ぶ方はメシア、キリストであるとユダヤ人たちは理解していました。神、主がメシアに対して「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい」と言われたということです。
　ペテロも同じ詩篇のみことばを引用して、イエスのよみがえりと昇天について証言しました。使徒 2：32〜35。イエスは十字架で死なれたけれどもよみがえり、天に上げられ、神の右の座についていると語りました。すなわちペテロは、イエス・キリストは神であり、御子であると宣べ伝えたのです。
　同じ詩篇のみことばを引用して、ヘブル書の著者も御子の神としての権能、権威と能力を強調しているのです。

４．御使いの働き（：14）
　以上のように、御使いとは違い、御子イエスは神であることを強調しています。それに対して御使いはどのような働きをするのでしょうか。14 節。
　御使いたちの役割は、救いを受け継ぐ人々、すなわちキリスト者たちに仕えることです。人が救われるのは聖霊のみわざです。悔い改めて、イエス・キリストを信じるとき聖霊が働き、人を新しく生まれさせてくださいます。また、私たちが神を礼拝し、聖書を悟り、神に祈ることにも聖霊の助けがあります。そうした聖霊のみわざであると聖書に教えられていること以外にも、神は御使いたちを遣わして、私たちを助け、守っていてくださるということです。私たちキリスト者、教会が助けを必要とするとき、御使いが仕えてくれているということです。
　それに対して、御子は私たちの救いのために、人となられてこの世に来られ、私たちの罪をすべて背負って十字架で死んでくださいました。そして、三日目によみがえり、天に昇り、今も私たちのためにとりなしていてくださいます。御子イエス・キリストによって救いが成し遂げられ、私たちは救われています。御使いの奉仕もありがたいですが、御子のみわざには全く及ばないのです。御子のみわざがあってこそ、御使いの奉仕があるのです。

　ヘブル書 1 章で著者が御使いと御子イエスを対比して語っているのは、御子イエスの卓越性を明らかにするためです。私たちも改めて、御子イエス・キリストのすばらしさを心に刻み、主に感謝しましょう。
　御父と御子は共に天地を創造し、初めから終わりまで統べ治めておられます。この世界を超えた永遠不変のお方です。そのお方がこの世を愛し、働きかけておられます。神の御子イエスが人となってこの世に来られた時代から 2000 年余り、ダビデが預言的に語り、歌った時代から 3000 年もの年月が経っています。この長い歴史を通して変わらない真実の神が、今もその約束を果たしてくださっていることを覚えていましょう。御子によって救いを成し遂げ、救いのみわざを進めておられることを感謝しましょう。そして、栄光の王キリストはやがて再び来られ、天地を新しくします。その日を待ち望みながら、私たちに与えられている主に仕えるわざを励みましょう。